

関東信越厚生局長 殿

開設者名 大山 喬

東京医科歯科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 22 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	117 人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	239人	313人	552.0人	看護補助者	人	診療エックス線技師	人
歯科医師	人	人	人	理学療法士	7人	臨床検査技師	75人
薬 剤 師	27人	11人	38.0人	作業療法士	4人	衛生検査技師	人
保 健 師	人	人	人	視能訓練士	7人	その他	人
助 産 師	16人	人	16.0人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看 護 師	664人	15人	673.7人	臨床工学技士	14人	医療社会事業従事者	5人
准 看 護 師	人	人	人	栄 養 士	人	その他の技術員	16人
歯科衛生士	人	人	人	歯 科 技 工 士	人	事 務 職 員	85人
管理栄養士	3人	3人	6.0人	診療放射線技師	34人	その他の職員	4人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	671.0 人	人	671.0 人
1日当たり平均外来患者数	2142.0 人	人	2142.0 人
1日当たり平均調剤数	(外来) 282.3 剤	(入院) 515.0 剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	1人
超音波骨折治療法 (四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。)のうち、観血的手術を実施したもの(開放性骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。)に係るものに限る。)	0人
抹消血幹細胞による血管再生治療 (慢性閉塞動脈硬化症又はパージャーカー病(重篤な虚血性心疾患又は脳血管障害を有するものを除く。)に係るものに限る。)	2人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術 (尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍(精巣がんから転移したものに限る。)又は骨盤リンパ節腫瘍(泌尿器がんから転移したものに限る。))	21人
人工括約筋を用いた尿失禁手術	5人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	イブリツモマブ チウキセタンによるRI標識抗体療法	取扱患者数	9 人
当該医療技術の概要	放射性同位元素であるイットリウム(90Y)及びインジウム(111In)を用いたCD20陽性再発または難治性の低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫(NHL)、ならびにマントル細胞リンパ腫(MCL)の治療。		
医療技術名	造血幹細胞移植	取扱患者数	25 人
当該医療技術の概要	自己末梢血幹細胞移植、同種骨髄移植、同種末梢血幹細胞移植、臍帯血移植を含めた造血幹細胞移植。		
医療技術名	治療抵抗性膠原病症例に対する免疫抑制剤・生物学的製剤投与	取扱患者数	30 人
当該医療技術の概要	本邦の膠原病診療は副腎皮質ステロイドが中心となっており、免疫抑制剤の使用は一部の疾患や病態に限られている。しかし、実際の臨床においては従来の副腎皮質ステロイド治療に抵抗性の症例やステロイドに不耐性の症例も多く存在する。当科では、それらの症例に対して海外の臨床研究や症例報告を参考とした免疫抑制剤・生物学的製剤の投与を行なっている。例としては、皮膚筋炎に合併した間質性肺炎に対するタクロリムスの投与や、ウェゲナー肉芽腫症に対するリツキシマブの投与が挙げられる。		
医療技術名	心房細動アブレーション	取扱患者数	83 人
当該医療技術の概要	カテーテルを用いて心房細動の起源、器質となる肺静脈左心房間を電気的に隔離する治療法。		
医療技術名	Electro-anatomical mapping system(CARTOマッピング)	取扱患者数	85 人
当該医療技術の概要	心臓電気生理検査において、心臓立体画像を構成し、その上に心筋の興奮伝導を視覚化し、頻拍機序の診断を行うマッピング方法。		
医療技術名	Non-contact mapping(Ensiteマッピング)	取扱患者数	11 人
当該医療技術の概要	心臓電気生理検査において、多点電極を使用することで心筋の興奮伝導を視覚化し、頻拍機序の診断を行うマッピング方法。		
医療技術名	両心室ペーシング	取扱患者数	4 人
当該医療技術の概要	重症心不全に対して、右室左室を同時にペーシングすることで、心室内同期不全を改善する治療法。		
医療技術名	光干渉断層法	取扱患者数	42 人
当該医療技術の概要	赤外線を用いて冠動脈病変の詳細を観察する画像診断法。		
医療技術名	血管内視鏡	取扱患者数	19 人
当該医療技術の概要	血管内を直視下に観察する画像診断方法。		
医療技術名	ロタブレーター	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要	石灰化が強く通常のバルーンでは拡張不可能な冠動脈病変に対して、先端にダイヤモンドコーティングがされたバーを高速回転させ病変を掘削する治療法。		

医療技術名	高安動脈炎に対するpositron emission tomography (PET) 診断	取扱患者数	7 人
当該医療技術の概要	高安動脈炎の活動性を評価する画像診断法。		
医療技術名	補助人工心臓	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要	重症心不全に対し、補助人工心臓を外科的に装着することで、心ポンプ機能を代行する治療法。		
医療技術名	誘電サイトメリーを用いた造血細胞移植後血管内皮障害・凝固異常のモニタリング	取扱患者数	14 人
当該医療技術の概要	造血細胞移植後患者において、誘電分光測定を用いて赤血球の特性を測定し、GVHD、血栓性微小血管炎、肝中心静脈閉塞症などの合併症の早期診断をおこなう技術。		
医療技術名	Ras関連自己免疫性リンパ増殖症候群様疾患の診断	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要	新たに同定したRas関連自己免疫性リンパ増殖症候群(RALD)において、K-Ras, N-Ras遺伝子塩基配列決定及び機能検査によって確定診断をおこなう技術。		
医療技術名	原発性免疫不全症に対する造血細胞移植後における血球系列別キメリズムの、HLA-Flow法による解析	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要	造血細胞移植後患者の骨髓あるいは末梢血を、各種血球抗原とHLA特異的抗体を用いて染色することにより、血球系毎のキメリズムを解析する技術。		
医療技術名	原発性免疫不全症の責任遺伝子解析	取扱患者数	約50 人
当該医療技術の概要	原発性免疫不全症(Wiskott-Aldrich症候群、Ataxia-telangiectasia、X連鎖無 γ グロブリン血症、慢性肉芽腫症、分類不能型免疫不全症、など)の責任遺伝子塩基配列決定をおこなう技術。		
医療技術名	KRECs, TRECs法を用いたB細胞新生能、T細胞新生能の評価及び原発性免疫不全症の診断	取扱患者数	約30 人
当該医療技術の概要	B細胞欠損症、T細胞欠損症(重症複合型免疫不全症)の高感度スクリーニングとして、B細胞・T細胞新生時に生成する遺伝子断片をPCR法にて検出し定量する技術。		
医療技術名	毛細血管拡張性運動失調症に対する少量ベタメタゾン治療	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要	毛細血管拡張性運動失調症に対し少量ベタメタゾンを投与し、運動失調改善をはかる技術(臨床研究)。		
医療技術名	造血細胞移植後白血病再発に対するドナー由来活性化CD4T細胞輸注	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要	造血細胞移植後の白血病再発に対して、ドナーのCD4T細胞を増殖させ、輸注する技術(臨床研究)。		
医療技術名	重症肺高血圧患者における肺血管圧-流量関係の測定	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要	先天性心疾患に合併する、または特発性の肺動脈性肺高血圧患者に対する治療方針決定には、肺血管抵抗の評価が最も重要視される。しかし日常の臨床現場で使用している肺血管抵抗値Rpでは正確な評価が不可能と考えられている。われわれは従来より動物基礎研究で使用されている肺血管圧-流量関係を、臨床に応用可能な測定法を考案した。バルーンカテーテルによる下大静脈閉塞により肺血流量を調節しながら、肺動脈圧と肺血流速度を同時測定することにより構築する。		

医療技術名	重症心不全患者に対する経皮的心肺補助循環	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要	劇症型心筋炎や重症心筋症患者の心不全は、薬物療法抵抗性であることも多く、以前は救命不可能と考えられていた。しかし最近では、このような重症心不全患者に対して、非内科的治療法として経皮的心肺補助循環療法を数日間施行することにより、心筋収縮力が改善し救命することが可能となってきた。体格の小さい小児では、脱血および送血ルートの確保が難しいが、心臓血管外科や小児外科の協力でカニューレションが可能となった。重症心不全に対する画期的な治療法である。		
医療技術名	先天性心疾患児に対するカテーテル・インターベンション治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要	先天性心疾患の治療法として以前は外科的手術療法しか存在しなかったが、最近ではカテーテルによる治療法(インターベンション治療)が可能となってきている。肺動脈や大動脈弁狭窄症に対するバルーン弁形成術、動脈管開存症や側副血行路を閉塞するコイル塞栓術、頻拍性不整脈に対するカテーテル・アブレーション法など様々な治療法がカテーテルによって可能となっている。		
医療技術名	重症川崎病患者に対するインフリキシマブ(レミケード)または血漿交換による治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要	重症川崎病患児の治療は、通常アスピリンおよびγグロブリン大量療法であるが、無効な例も多く大学病院に紹介される症例が多い。全身の血管炎である川崎病の心合併症は重篤であり、冠動脈瘤破裂による急性期突然死例や、冠動脈高度狭窄または閉塞による慢性期心筋梗塞発作による死亡例が存在する。このような心臓死をなくすためには、急性期早期に炎症を抑制するためのインフリキシマブの使用や、血漿交換の施行が有効とされている。倫理委員会の許可は済んでいる。		
医療技術名	QT延長症候群など致死性不整脈患児の検査及び薬物治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要	乳幼児突然死症候群の1つの原因疾患としてQT延長症候群がある。最近では学校心臓検診により発見される症例が多く、重症例に対しては他院からの紹介も積極的に受け入れ、検査入院として治療方針を決定している。検査内容は、トレッドミル運動負荷心電図やホルター心電図は当然のことながら、加算平均心電図によるlate potentialの測定、ボスミン負荷心電図、顔面冷水負荷心電図および両親を含めた遺伝子検査を行っている。結果によりβ遮断薬またはメキシチールの投与を行う。		
医療技術名	重症肺高血圧患者に対するエポプロステノール(フローラン)治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要	特発性肺動脈性肺高血圧症など重症肺動脈性肺高血圧症患者に対する治療法としては、内服の標的治療薬では無効なことが多く、エポプロステノールによる中心静脈からの持続的静脈内注射療法が選択される。しかしこの治療法は、感染症、血栓塞栓症、血圧低下やカテーテル閉塞による急変など非常に合併症が多く、また生命に直結する重篤な合併症がほとんどである。そのため本治療法を施行するには、重症肺高血圧治療のノウハウを知る必要性があり、管理法は難しい。		
医療技術名	難治てんかんを有する小児てんかん患者に対するケトン食療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要	適切な抗てんかん薬使用によっても発作抑制が困難で、重度の発達遅滞を合併する小児てんかん患者に対し、ケトン食療法が効果を上げることが知られているが、作用機序・適応病型など明らかでない点も多い。アシドーシス・腎結石など重篤な副作用の予防・管理も必要となるため一般病院で行うことが困難である。我々は多焦点発作を有する結節性硬化症の10ヵ月男児、難治部分発作を持ち外科手術も無効であった3歳男児にケトン食療法を行い、発作改善・発達促進を確認した。		
医療技術名	難治てんかんを有する小児てんかん患者に対する外科手術術前評価	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要	適切な抗てんかん薬使用によっても発作抑制が困難な小児てんかん患者に対し、焦点切除術・脳梁離断術などの外科手術が近年行われるようになってきているが、発作型を正確に診断し、最適な術式を決定する必要がある。当院脳外科にててんかん外科手術目的で紹介された小児患者に対して、ビデオ脳波同時記録(発作時脳波)、発作時・非発作時SPECT、FDG-PET、高解像度MRIなどの評価を小児科にて施行し、脳外科と綿密な症例検討の後に3例に対し外科手術を施行した。		

医療技術名	急性腎不全の管理	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要	年少で低体重の患児に対して、原病の治療をするとともに輸液管理、血圧管理などを利尿剤、降圧剤などを用いて詳細な水分バランスを検討しながら実施し、状態の改善が得られ、透析を回避することができた。		
医療技術名	小児における経皮的腎臓針生検	取扱患者数	18 人
当該医療技術の概要	成人と異なり、安静を保つことができず、また腎臓も小さい小児に対して経皮的腎臓針生検をエコーガイド下で行なった。静脈麻酔薬による鎮静と、穿刺部位のエコーによる正確な位置決めが必要である。		
医療技術名	一人法(single operator method)によるダブルバルーン小腸内視鏡検査	取扱患者数	89 人
当該医療技術の概要	ダブルバルーン小腸内視鏡の従来法は内視鏡の操作とオーバーチューブの操作を別々の人間が行う二人法であった。両者の協調操作をより円滑に行うため、補助台の使用やオーバーチューブ内に生理食塩水を持続注入する等の工夫により、両方の操作を一人で行なう一人法(single operator method)が可能となった。		
医療技術名	一人法(single operator method)によるダブルバルーン大腸内視鏡検査	取扱患者数	9 人
当該医療技術の概要	従来の内視鏡では挿入困難な癒着腸管症例等に対してダブルバルーン内視鏡を使用することで挿入可能となり、一人法で操作することで、円滑な処置が可能となっている。		
医療技術名	一人法(single operator method)による術後再建腸管に対するダブルバルーン内視鏡による内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)	取扱患者数	13 人
当該医療技術の概要	通常内視鏡では到達不可能な術後再建腸管の十二指腸乳頭に対して、ダブルバルーン内視鏡を使用することにより、十二指腸乳頭までアプローチを行い、ERCPおよび処置を行う技術。従来法の二人法ではなく一人法で挿入すると、内視鏡回りにスペースの余裕ができ、円滑な協調作業が可能となる。		
医療技術名	乳癌における皮下乳腺全摘と腹部穿通枝脂肪弁を用いた同時再建	取扱患者数	15 人
当該医療技術の概要	乳癌手術では、乳房皮膚を温存し全乳腺を切除する。その全乳腺の代用として腹部の脂肪を遊離移植(マイクロを用いた血管吻合あり)し、乳癌手術と同時に再建を行う。(形成外科との協力)		
医療技術名	早期乳癌におけるラジオ波熱凝固療法	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要	早期乳癌を対象に乳房にメスを入れずに癌を焼いてしまう療法。全身麻酔下でラジオ波電極針を超音波エコー下にて病変部の中央を目標に穿刺し、熱凝固を行う。		
医療技術名	腹腔鏡下大腸切除術	取扱患者数	65 人
当該医療技術の概要	従来の開腹手術と異なり、腹部の創を大きく切らずに腹部に1cm前後の穴を数カ所開けてその穴を通して腹部手術を行う。創が小さいため、痛みが少なく、整容性に優れた手術である。		
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術	取扱患者数	7 人
当該医療技術の概要	開腹手術ではなく鏡視下で行なう。		
医療技術名	腹腔鏡下膵体尾部切除術	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要	開腹手術ではなく鏡視下で行なう。		

医療技術名	迷走神経刺激療法	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要	難治性てんかん患者に対して、迷走神経刺激装置を埋め込み治療する。		
医療技術名	広範囲頭蓋底手術	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要	頭頸部外科・耳鼻咽喉科・形成外科・血管内治療科と合同による術前腫瘍塞栓術・再建術を伴う広範囲頭蓋底腫瘍摘出術。		
医療技術名	マルチモダリティによる神経腫瘍摘出術	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要	メチオニンPET情報を取り込んだナビゲーションガイド、術中光学計測によるマッピング、5ALA等のマルチモダリティを導入した脳腫瘍摘出術。		
医療技術名	脊髄誘発磁界測定による脊髄機能診断	取扱患者数	30 人
当該医療技術の概要	脊髄の電気活動が発生するごく微弱な磁界を測定し、脊髄機能を体表面から診断する技術。		
医療技術名	経頭蓋電気刺激筋誘発電位を用いた術中脊髄・末梢神経機能モニタリング	取扱患者数	100 人
当該医療技術の概要	脳を経頭蓋電気刺激し四肢の筋より筋誘発電位を測定することで、全身麻酔手術中に脊髄や末梢神経の機能をモニタリングし、安全に脊椎や股関節手術をおこなう技術。		
医療技術名	人工骨と自己骨髓血を用いた、骨採取の必要のない脊椎固定術	取扱患者数	30 人
当該医療技術の概要	脊椎固定術をハイドロキシアパタイト人工骨および自己骨髓血を用いてを行うことで、術後の採骨部痛を起さない技術。		
医療技術名	術中CTを併用した脊椎手術	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要	脊椎手術中にCT撮影を行うことで、骨切除やスクリュー刺入の精度を高めたより安全な手術をおこなう技術。		
医療技術名	一期的両側人工股関節置換手術	取扱患者数	30 人
当該医療技術の概要	人工股関節置換手術を一度の麻酔のもとで、左右同日に行い、術後早期の回復と入院期間短縮を可能にする。		
医療技術名	神経機能モニタリング下の人工股関節置換手術	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要	下肢延長を伴う人工股関節置換手術において、下肢末梢神経延長に伴う麻痺を防止する技術。		
医療技術名	滑膜幹細胞移植術	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要	自己滑膜から間葉系幹細胞を分離増殖させ、関節鏡視下に軟骨欠損部に移植する。		

医療技術名	膝前十字靭帯2重束再建術	取扱患者数	80 人
当該医療技術の概要	膝屈筋腱を2重束とし、関節鏡視下に解剖学的に前十字靭帯を再建する。		
医療技術名	膝複合靭帯損傷	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要	膝複合靭帯損傷に対し鏡視下に靭帯を再建する。		
医療技術名	両側同時人工膝関節置換術	取扱患者数	47 人
当該医療技術の概要	人工膝関節置換術を両側同時に施行する。		
医療技術名	ミニマム創内視鏡下手術(腹腔鏡下小切開手術)	取扱患者数	236 人
当該医療技術の概要	ガスレス・シングルポート・後腹膜アプローチの低コストをみたく先端的低侵襲手術。対象臓器はすべての泌尿器科臓器(副腎・腎・尿管・膀胱・前立腺)。		
医療技術名	人工括約筋手術	取扱患者数	8 人
当該医療技術の概要	前立腺全摘除術後尿失禁を含む外尿道括約筋機能低下を有する男性尿失禁患者に対する手術的治療。		
医療技術名	高圧酸素療法	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要	放射線性膀胱炎・出血性膀胱炎などに対する非観血的止血治療法。		
医療技術名	浸潤性膀胱癌の膀胱温存療法	取扱患者数	9 人
当該医療技術の概要	浸潤性膀胱癌の標準的根治治療は膀胱全摘であるが、一部の患者では膀胱を摘出せずに完治可能であることが知られている。根治性を損なわずに膀胱温存が可能と判断される、転移のない浸潤性膀胱癌患者に対しては、低侵襲な集学的治療(低用量化学放射線療法+ミニマム創内視鏡下膀胱部分切除および骨盤リンパ節郭清)による膀胱温存療法を行っている。		
医療技術名	腎癌ICCA療法	取扱患者数	12 人
当該医療技術の概要	インターフェロン α にシメチジン、COX-2阻害剤、アンギオテンシンII受容体拮抗剤を加えたI-CCA療法は、転移を有する、あるいは手術を行うことが困難な、進行した腎がんの患者が対象となる。本療法は、分子標的治療薬と同等の効果が期待でき、副作用はより軽度で、かつ低コストな治療である。		
医療技術名	前立腺癌の遅延CAB療法	取扱患者数	56 人
当該医療技術の概要	前立腺癌に対する内分泌療法を開始する際に、アンドロゲン除去療法のみで治療を開始し、再燃時に抗アンドロゲン剤を追加する(遅延CAB療法)。本療法が有効であった症例は、以後の薬剤の走行期間が長く、全生存期間の延長が期待される。また、本療法は、医療費軽減、予後予測や治療方針検討に役立つ可能性がある。		

医療技術名	前立腺立体生検法	取扱患者数	242 人
当該医療技術の概要	前立腺癌疑いにおける精密で効率的な生検方法。経直腸生検と経会陰生検を併用する。効率的な癌の検出、検出された癌に対するきめ細かな治療計画が可能となる。		
医療技術名	前立腺全摘時の単径ヘルニア防止術	取扱患者数	77 人
当該医療技術の概要	前立腺全摘後に生じる単径ヘルニアの頻度は無視できない。前立腺全摘時に単径ヘルニア発症を予防する手技(腹膜鞘状突起切断法)を開発し、これにより単径ヘルニア発症率の低下を得ている。		
医療技術名	前立腺癌部分治療	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要	限局性前立腺癌の根治療法(前立腺全摘除、放射線療法)は治療による合併症やQOL低下を伴う場合がある。一方、積極的待機療法(無治療経過観察)も標準治療法の一つであるが、根治の機会を逃す可能性への不安を伴う場合も少なくない。十分な治療効果を持ち、かつ合併症の少ない治療法として、前立腺の左右の片側のみを治療する前立腺部分治療を適応を満たす患者に導入している。		
医療技術名	無阻血でのミニマム創内視鏡下腎部分切除術(腹腔鏡下小切開手術)	取扱患者数	43 人
当該医療技術の概要	小径の腎腫瘍の多くは腎部分切除の適応となるが、通常は出血をコントロールする目的で術中に腎血流遮断が行われ、術後腎機能低下のリスクがある。術後の腎機能を良好に保つために、腎血流を遮断しない術式を開発した。		
医療技術名	網羅的迅速診断システムによる難治性眼炎症疾患の診断	取扱患者数	200 人
当該医療技術の概要	眼内液(前房水、硝子体液)を用いて、ウイルス(ヒトヘルペスウイルス1型~8型、HTLV-1)、細菌(16S rRNA)、真菌(18S rRNA)、結核、トキソプラズマ、トキソカラ、アカントアメーバなどをmultiplex PCRでスクリーニングし、陽性のものはreal time PCRで定量するシステムを本学眼科、ウイルス治療学、細胞治療センターとで共同開発し、臨床で用いている。このシステムは厚労省科学研究費障害者対策総合事業の補助を平成21年度から受けている事業である。		
医療技術名	眼内リンパ腫の診断と治療	取扱患者数	40 人
当該医療技術の概要	眼内リンパ腫は中枢神経系に病変を生じ予後不良な疾患であり、眼病変はぶどう膜炎に類似しており通常の臨床検査では診断出来ず、眼内液(前房水、硝子体液)の病理細胞診断は陽性率が低い。我々は眼内液のIL-10濃度測定、並びに、イムノグロブリン重鎖の遺伝子再構成をPCR法で検出する診断法を確立し、多くの症例に用いている。また、メソトレキサート硝子体注射により眼内リンパ腫の眼内病変の治療をおこないよい成績をおさめている。		
医療技術名	自家調整デノシン点眼薬によるサイトメガロウイルス前部ぶどう膜炎の治療	取扱患者数	30 人
当該医療技術の概要	サイトメガロウイルスによる前部ぶどう膜炎は難治性の高眼圧と虹彩炎を生じ副腎皮質ステロイド薬や眼圧下降薬が無効の難治性疾患であり、水疱性角膜症や視神経委縮に陥る。これにたいする治療としてはサイトメガロウイルスに感受性の高い自家調整デノシン点眼薬を治療に応用し、好成績をあげている。		
医療技術名	感音難聴症例の遺伝子診断	取扱患者数	40 人
当該医療技術の概要	原因不明の感音難聴症例の原因遺伝子座ならびに遺伝子の解析を行い、難聴の発症機構の解明と難聴の予後について検討する。		

医療技術名	Tinnitus Retraining Therapyを用いた耳鳴治療	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要	難知性の耳鳴症例を対象に、耳鳴をマスクする雑音を聴取することで、耳鳴の治療を行う。		
医療技術名	埋め込み型骨導補聴器による聴覚回復	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要	両側の外耳道が未発達あるいは低形成の例、鼓室形成術等の手術で聴力の改善がみられない両側難聴例、耳漏が持続しているため通常の補聴器装用が困難な例を対象とする。手術では、耳後部の頭蓋骨内にチタン性の長さ3ないし4mmのスクリューを埋め込み、このスクリューの一部を皮膚の外に露出させる。この外部のスクリューに、骨導補聴器を装着してコミュニケーションを行う。		
医療技術名	頭蓋底手術	取扱患者数	16 人
当該医療技術の概要	頭蓋底手術ではチーム医療が必要である。頭頸部外科・耳鼻咽喉科は審美性・機能性を重視した顔面深部へのアプローチ・病変の切除を行い、周術期管理を担当する。脳神経外科は開頭、脳の挙上、頭蓋内病変の操作を行う。形成外科は切除によって失われた部位の再建を行う。当科では全国から治療困難な症例の紹介を受けており、前頭蓋底手術より難易度が高い中頭蓋底手術が10/16例と多数を占めるのが特徴である。		
医療技術名	経口腔的下咽頭部分切除術	取扱患者数	12 人
当該医療技術の概要	下咽頭癌は部位的に見つかりづらく、以前は進行してから診断される事が多かった。しかし近年、診断技術の向上により、早期癌の状態で見られる症例も増えてきた。頭頸部外科・耳鼻咽喉科は食道胃外科と診断・治療チームを形成し、下咽頭早期癌に対する彎曲型喉頭鏡を利用した経口腔的下咽頭部分切除術を行っている。これにより音声や嚥下機能などの機能温存を達成しながら、良好な治療成績を納めている。(これまで、3年粗生存率、喉頭温存率は100%)		
医療技術名	舌癌を含む口腔癌の小線源治療	取扱患者数	153 人
当該医療技術の概要	舌癌を含む口腔癌を局所麻酔下に非侵襲的な放射性小線源治療を用いて組織欠損なく根治治療を行う技術である。		
医療技術名	抗凝固療法中の患者に対するエコーガイド下末梢神経ブロック	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要	重症心疾患があり、さらに抗凝固療法中の患者では、脊髄くも膜下麻酔や、硬膜外麻酔が禁忌となる上に、全身麻酔も避けたい。このような患者に対する手術のうち末梢神経ブロックで手術可能な場合は、エコーガイド下末梢神経ブロックを行う。		
医療技術名	多系統萎縮症に対する先進治療:リファンピシン療法	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要	多系統萎縮症は厚生労働省が定める特定疾患で、有効な根本的治療法が全くない神経難病である。多系統萎縮症のモデルマウスにおいて、抗結核薬のリファンピシンが有効であるという知見が2008年に米国から報告されたのを受け、当施設では世界で初めて同薬を用いた臨床試験を開始し、これまでに20名の患者での投与と長期経過観察診療を行っている。		
医療技術名	球脊髄性筋萎縮症の長期予後に対する抗アンドロゲン療法(ゾラデックス)	取扱患者数	12 人
当該医療技術の概要	球脊髄性筋萎縮症は、X染色体劣性遺伝型の運動ニューロン疾患であり、厚生労働省が定める特定疾患である。この疾患のため、患者は脚や上肢、舌や喉の筋肉が衰え、徐々に動けなくなる。この疾患患者の初期にはある程度抗アンドロゲン療法が有効であることが知られているが、長期的な治療を行っている施設はない。当科では世界でも例を見ない数の本疾患患者について、抗アンドロゲン療法を長期間行い、経過観察を行っており、効果が得られている患者も多い。		

医療技術名	神経筋疾患の遺伝子診断	取扱患者数	161 人
当該医療技術の概要	当科では、本学に受診された患者さんに必要な遺伝子診断を行っている。さらに、国内・海外からの依頼も受けており、2010年は161名の患者につき、1患者当たり6種類までの遺伝子診断を行うこともあるため、のべ600件に上る遺伝子診断を行った。		
医療技術名	補助人工心臓	取扱患者数	4 人
当該医療技術の概要	末期重症心不全患者に対して心臓移植待機を目的とした補助人工心臓の装着と管理を実施している。		
医療技術名	悪性胸膜中皮腫に対する集学的治療	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要	悪性胸膜中皮腫に対して、一側胸膜肺全摘術・抗癌剤化学療法・強度変調放射線治療からなる、根治的3者療法。		
医療技術名	PDE(pigeon dropping extract)吸入誘発試験	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要	特定疾患である特発性間質性肺炎と鑑別が困難な慢性鳥関連過敏性肺炎の診断確定に用いる試験である。専門的な技術と経験が必要であり、本邦で実施可能なのは当科のみである。		
医療技術名	遊離穿通枝皮弁による再建術(頭頸部・顔面18、乳房12、四肢・体幹2)	取扱患者数	32 人
当該医療技術の概要	微小血管吻合を用いて移植する従来の遊離筋皮弁移植術の進化技術。従来の方法では、筋肉の犠牲があったが、筋肉内の概ね1ミリ以下の血管(動脈・静脈とも)を剥離して追うことにより、筋肉を温存した形で遊離移植する、新しく進化した術式。		
医療技術名	半側空間失認患者に対するミラー療法	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要	脳血管疾患をはじめ脳腫瘍などでも認められることのある、空間認識障害に対して、健側の矢状面に鏡を置き、鏡を見ながら健側上肢を空間無視側へ移動させることで、空間認識能力の回復を図る訓練法。		
医療技術名	持続血液透析濾過	取扱件数	572 件
当該医療技術の概要	急性腎不全の重症例や全身状態の悪い症例に対して行われる血液浄化法で、血液透析濾過を24時間持続的に行う。少量ずつ透析を持続的に行うため、全身状態に与える影響が少なく、血管外物質の除去効率が高い。		
医療技術名	血漿交換	取扱件数	139 件
当該医療技術の概要	血液を血漿分離器で血球成分と血漿成分に分離した後に、病気の原因物質を含む血漿を廃棄して、それと同じ量の健常な方の血漿(新鮮凍結血漿)、もしくはアルブミン製剤を入れて置き換える治療法。劇症肝炎、肝不全、血栓性血小板減少性紫斑病、ステロイドや免疫抑制剤の治療の効果が少ない活動性の強い膠原病(全身性紅斑性エリトマトーデスなど)などが適応となる。		
医療技術名	血漿吸着	取扱件数	24 件
当該医療技術の概要	血液を取り出しそのまま直接カラムに通し、血液中の病因物質を吸着器に吸着させ、除去し、また血液を身体に返す治療法。当院では家族性高コレステロール血症に対し、LDL吸着を行っている。		
医療技術名	エンドトキシン吸着	取扱件数	40 件
当該医療技術の概要	エンドトキシン血症に伴う重症病態の改善のため、エンドトキシンを選択的に吸着除去する吸着型血液浄化器(トレミキシン)を用いた血液浄化療法。		

医療技術名	顆粒球、リンパ球吸着	取扱件数	64 件
当該医療技術の概要	潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患では、活性化した顆粒球やリンパ球を吸着療法により体外へ除去し、腸管での炎症部位に動員される白血球を減少させ、炎症を鎮静化する治療法。		
医療技術名	高気圧酸素治療	取扱患者数	5,484 人
当該医療技術の概要	当院の高気圧酸素治療は、日本最大の16名同時に治療可能な高気圧酸素治療装置を有し、多くの患者を治療可能であるのみならず、医師・看護師も同室して治療可能なシステムのため、集中管理を要する重症患者治療も積極的に施行している。安全管理についても徹底しており、国際的にも本院の高気圧酸素治療の治療システムは、高く評価されている。		
医療技術名	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要	末梢血から採取した自己リンパ球と自己の腫瘍とを混合培養するなどして接触させた後、体外でインターロイキン2などの存在下で培養し、腫瘍に特異的と期待されるキラー細胞を誘導し、増殖させ、再び体内へ戻す療法。		
医療技術名	末梢血幹細胞による血管再生治療	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要	慢性閉塞性動脈硬化症等の血管障害の患者の四肢に、末梢血幹細胞を局所注射することによって、末梢血管の再生を図る技術。		
医療技術名	滑膜由来間葉系幹細胞を用いた軟骨再生医療	取扱患者数	9 人
当該医療技術の概要	滑膜由来幹細胞を用いて、膝の軟骨損傷や限局性変形性膝関節症の軟骨再生をはかる技術。		
医療技術名	高感度多項目迅速ウイルス検査法	取扱患者数	1,382 人
当該医療技術の概要	PCR法を用いて、12種類のウイルスを高感度かつ迅速に同定し、陽性ウイルスについては定量測定を行い、感染症の病勢判断に資する技術。		
医療技術名	Short tandem repeat法を用いた造血細胞移植後のキメリズム解析	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要	12種類のプローブによるShort tandem repeat法を用いて個人識別を行い、移植後のキメリズム解析を行う技術。		
医療技術名	造血細胞移植後白血病再発に対するドナー由来活性化CD4T細胞輸注	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要	造血細胞移植後の白血病再発に対して、ドナー（臍帯血あるいは血液）のCD4T細胞を増殖させ、輸注する技術。		
医療技術名	血管再生（新生）療法	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要	老年病内科が主たる診療科として取り組んでいる先進医療。輸血部では末梢血に動員された血管幹細胞の成分採血による採取と、濃縮を実施している。		
医療技術名	自家末梢血幹細胞採取・移植	取扱患者数	17 人
当該医療技術の概要	血液内科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血部では末梢血に動員された造血幹細胞の成分採血による採取と細胞の評価、凍結保存を実施している。		

医療技術名	同種末梢血幹細胞採取・移植	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要	血液内科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血部では末梢血に動員された造血幹細胞の成分採血による採取と細胞の評価、凍結保存を実施している。		
医療技術名	同種骨髄の採取・移植	取扱患者数	15 人
当該医療技術の概要	血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血部では骨髄バンクドナーを含む採取、移植細胞の評価、血液型不適合移植の場合の処理を担当している。		
医療技術名	同種臍帯血移植	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要	血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血部では移植細胞の評価を担当している。		
医療技術名	胃腸管間質腫瘍(GIST)の分子病理学的診断	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要	胃腸管間質腫瘍(GIST)におけるc-kit遺伝子の点突然変異をdirect sequence法により検出し、イマチニブ感受性を予測する。		
医療技術名	gliomaのFISH法による分子病理学的診断	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要	1q25プローブ/1p36 プローブを用いてoligodendrogliomaとastrocytomaの鑑別を行い、化学療法・放射線治療感受性の予測を行っている。		
医療技術名	In situ hybridization法によるウイルス感染の分子病理学的診断	取扱患者数	100 人
当該医療技術の概要	EBウイルスのRNA(EBER)を特異的プローブで検出し、悪性リンパ腫を中心として分子病理学診断を行っている。		

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ペーチェット病	156人	・膿疱性乾癬	1人
・多発性硬化症	98人	・広範脊柱管狭窄症	12人
・重症筋無力症	83人	・原発性胆汁性肝硬変	26人
・全身性エリテマトーデス	323人	・重症急性膵炎	1人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	68人
・再生不良性貧血	22人	・混合性結合組織病	48人
・サルコイドーシス	183人	・原発性免疫不全症候群	65人
・筋萎縮性側索硬化症	36人	・特発性間質性肺炎	62人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	268人	・網膜色素変性症	35人
・特発性血小板減少性紫斑病	62人	・プリオン病	2人
・結節性動脈周囲炎	37人	・肺動脈性肺高血圧症	7人
・潰瘍性大腸炎	151人	・神経線維腫症	13人
・大動脈炎症候群	125人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	48人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	45人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4人
・脊髄小脳変性症	174人	・ライソゾーム病	1人
・クローン病	148人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	33人	・脊髄性筋萎縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	84人	・球脊髄性筋萎縮症	13人
・アミロイドーシス	10人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	37人
・後縦靭帯骨化症	69人	・肥大型心筋症	4人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	178人	・ミトコンドリア病	7人
・ウェゲナー肉芽腫症	20人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	4人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	21人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	57人	・黄色靭帯骨化症	3人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	35人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術 (腎腫瘍、前立腺癌及び副腎腫瘍に係るものに限る)	・
・超音波骨折治療法 (四肢の開放骨折又は粉碎骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。)のうち、観血的手術を実施した場合に限る。)	・
・眼底三次元画像解析	・
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	・
・膀胱水圧拡張術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	週に5回程度、症例検討会を実施している。 (定例会は週3回。その他、随時個別に臨床部門と月8回以上開催)
部 検 の 状 況	部検症例数 55例 / 部検率 14.30%

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
血管内皮前駆細胞を標的とした新たな加齢黄斑変性の治療戦略	渡辺 守	消化器病態学	1,400	補 日本学術振興会
哺乳動物細胞におけるNDRキナーゼの制御機構の解析	内田 信一	腎臓内科学	1,300	補 日本学術振興会
細胞内ピロリ菌の形態・生息期間・形質の解析と病態への関与	有井 滋樹	肝胆臓・総合外科学	1,430	補 日本学術振興会
生理活性ペプチドホルモンによる摂食・代謝制御機構の解明	水澤 英洋	脳神経病態学	700	補 日本学術振興会
持続的NF- κ B活性化メカニズムの解明と疾患	上阪 等	膠原病・リウマチ内科学	21,710	補 日本学術振興会
哺乳類オートファジーの研究、PI3K複合体と下垂体オートファジーによる解析	横田 隆徳	脳神経病態学	1,000	補 日本学術振興会
難治疾患病態理解のための筋免疫学創成への挑戦	渡辺 守	消化器病態学	3,000	補 日本学術振興会
肺がんにおけるカルボキシペプチダーゼMの発現と予後の研究	佐々木 成	腎臓内科学	650	補 日本学術振興会
濾胞性リンパ腫の腫瘍化における濾胞樹状細胞の機能解析:新規治療法の開発を目指して	田中 真二	肝胆臓・総合外科学	2,080	補 日本学術振興会
TDP-43過剰発現による孤発性ALSのサルモデル作製	望月 學	眼科学	16,120	補 日本学術振興会
シグナル伝達の光制御法の開発と神経への応用	針谷 正洋	薬害監視学	700	補 日本学術振興会
孤発性筋萎縮性側索硬化症ラットモデルの確立	水谷 修紀	発生発達病態学	1,599	補 日本学術振興会
敗血症性ショックにおけるアディポネクチンの役割と治療法の検討	岡崎 睦	形成外科学	650	補 日本学術振興会
GPIアンカー型受容体のシグナル変換機構:高速1蛍光分子追跡による解明	坂本 直哉	分子肝炎制御学	1,000	補 日本学術振興会
脊髄小脳変性症6型(SCA6)の発症機序の解明及び治療法の開発	西川 徹	精神行動医科学	700	補 日本学術振興会
ラオス・ベトナムにおける小児保健医療サービス利用支援環境要因の指標化	四宮 謙一	整形外科	1,300	補 日本学術振興会
小脳モジュールの構築と基本動作機構	喜多村 健	耳鼻咽喉科学	5,720	補 日本学術振興会
免疫抑制性CD4+CD25+T細胞腸管局所移入療法の確立	頼 建光	血液浄化療法部	1,170	補 日本学術振興会
独自の培養技術を用いた大腸上皮細胞機能解析と腸炎細胞治療技術の基盤確立	大野 京子	眼科学	24,830	補 日本学術振興会
腎臓膜輸送体を制御する新規細胞内刺激伝達系の解明	磯谷 栄二	救命救急センター	9,360	補 日本学術振興会
血管新生シグナルによる腫瘍増殖および悪性化の抑制に関わるメカニズムの解析	山脇 正永	臨床教育研修センター	1,000	補 日本学術振興会
Notchシグナルによる腸管粘膜再生機構の解析	大川 淳	整形外科	2,080	補 日本学術振興会
胎生期における疾患原因の作用と小児造血器疾患	寺田 純雄	神経機能形態学	1,820	補 日本学術振興会
Xp11転座腎癌の悪性度を規定する分子機序の解析及び疾患特異的分子標的治療の確立	東田 修二	臨床検査医学	1,040	補 日本学術振興会
マウス指向性C型肝炎ウイルスを用いた感染動物モデルの樹立	根本 泰宏	消化器病態学	1,500	補 日本学術振興会
日本住血吸虫宿主RNA取り込み関連遺伝子に関する研究	永石 宇司	消化器内科	3,380	補 日本学術振興会
肝幹・前駆細胞の分化増殖機構の解析と疾患治療モデルの構築	吉本 貴宣	内分泌・代謝内科	2,080	補 日本学術振興会
関節軟骨代謝における老化制御因子SIRT1の機能解析	磯部 光章	循環制御内科学	1,430	補 日本学術振興会
好塩基球の生体内における機能解析	南木 敏宏	薬害監視学	1,000	補 日本学術振興会
細胞傷害性T細胞自己免疫筋炎モデル確立と自然免疫活性化による疾患再燃機構の解明	森尾 友宏	発生発達病態学	1,599	補 日本学術振興会
近視性脈絡膜新生血管の発生機序の解明、分子機構に基づいた新たな治療法の開発	長澤 正之	地域小児医療調査研究	1,820	補 日本学術振興会
神経系細胞骨格蛋白質の細胞内動態の調節因子の探索	菅野 範英	血管外科	1,170	補 日本学術振興会
肩関節およびその周囲筋についての臨床解剖学ならびに比較解剖学的研究	工藤 篤	肝胆臓外科	1,300	補 日本学術振興会
シグナルクロストークによるHath1制御とパネト細胞形質発現機構	若林 良明	整形外科	2,080	補 日本学術振興会
WNK4キナーゼの腎臓における役割の解析	阿江 啓介	整形外科	1,430	補 日本学術振興会
治療抵抗性GVHDの機序解明と治療法の探索	神野 哲也	整形外科	1,300	補 日本学術振興会
新たな腎臓膜輸送体制御法の開発	杉田 直	眼科学	12,870	補 日本学術振興会
リケツ罹患を指標とした健康の社会的格差の測定と予防:モンゴル小児のコホート	高橋 薫	包括病理学	5,850	補 日本学術振興会
蛍光イメージング法を用いた細胞内アミノ酸レベルの解析	安原 真人	薬剤部	700	補 日本学術振興会
敗血症に伴う多臓器不全に対する内皮細胞保護療法	北川 昌伸	包括病理学	3,510	補 日本学術振興会
ブタを用いた脳血管内治療トレーニングプログラムの開発	中村 哲也	消化管先端治療学	1,950	補 日本学術振興会
幹細胞による脊髄小脳変性症の治療法開発の基礎的研究	戸塚 輝治	消化器病態学	1,800	補 日本学術振興会
前立腺の炎症関連発癌と遺伝子変異誘導酵素AIDの上皮内異所性発現	鈴木 伸治	消化器病態学	1,700	補 日本学術振興会
XMRV感染の腫瘍悪性度への効果の解析	長堀 正和	消化器内科	1,560	補 日本学術振興会
熱ショック蛋白による眼内炎症抑制機構の解明	大岡 真也	総合診療部	2,340	補 日本学術振興会
地域居住高齢者の終末期におけるケア・キャパシティの最大化	東 正新	消化器内科	1,560	補 日本学術振興会
癒化抑制に関与する転写制御機構の解析	野田 裕美	慢性腎臓病病態治療学	700	補 日本学術振興会
肥満患者におけるWNKキナーゼを介した塩分感受性高血圧メカニズムの解明	石川 欽也	神経内科	2,080	補 日本学術振興会
好塩基球の生理機能と病態形成における役割の解明	三浦 修	血液内科学	5,850	補 日本学術振興会
医薬品流通市場が拡大する途上国で行う抗生物質リテラシー教育の耐性菌増加阻止効果	車地 暁生	精神行動医科学	700	補 日本学術振興会
肝幹細胞移植による肝再構築機構の解析	工藤 敏文	血管病先端制御学	1,690	補 日本学術振興会
チロシンキナーゼ阻害剤が軟骨細胞の分化・増殖に及ぼす影響の検討	前原 健寿	脳神経外科	1,560	補 日本学術振興会
高磁場MRIを用いた脳梗塞に対する新たな血栓溶解療法の効果に関する基礎的研究	榎本 光裕	整形外科先端治療開発学	1,235	補 日本学術振興会
ヒト単球由来細胞におけるsalusin- β の産生・分泌機構	関矢 一郎	軟骨再生学	2,080	補 日本学術振興会
情動ストレスによる突然死の分子病態研究	麻生 義則	整形外科先端治療開発学	1,638	補 日本学術振興会
塞栓子検出ドプラ装置による肺塞栓症発症リスク評価法の確立	古賀 大介	整形外科	1,040	補 日本学術振興会
封入体筋炎におけるオートファジーの意義	早乙女 進一	整形外科先端治療開発学	1,599	補 日本学術振興会
好塩基球を標的とした慢性痒疹・痒疹反応の機序の解析と新規治療の開発	宗田 大	運動器外科学	1,950	補 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
急性腎障害における心臓性ナトリウム利尿ペプチドの腎保護作用メカニズムの研究	宮坂 尚幸	小児・周産期地域医療学	910	補 日本学術振興会
アデノ随伴ウイルスベクターを用いた抗体発現型アルツハイマー病治療法の開発	明石 巧	病理部	700	補 日本学術振興会
関節軟骨細胞に発現する破骨細胞分化制御因子の機能に関する研究	荒木 昭博	光学医療診療部	1,430	補 日本学術振興会
マイクロRNAによる骨芽細胞・骨細胞分化調節機構の解明	岡田 英理子	光学医療診療部	1,300	補 日本学術振興会
PAC発現トランスジェニックマウスの作成と解析	長沼 誠	消化管先端治療学	1,500	補 日本学術振興会
眼特異的ヒト制御性細胞の免疫学的分子生物学的機能解析	篠島 裕子	総合診療部	2,210	補 日本学術振興会
RASSF6による細胞死誘導機構の解明	黒須 哲也	血液内科	2,340	補 日本学術振興会
ウイルス複製に必要な細胞因子の同定と解析	福田 哲也	血液内科	5,850	補 日本学術振興会
注入型多孔質ポリウレタン scaffold を使用した骨再生	朴 今花	発生発達病態学	1,599	補 日本学術振興会
タンパク質分解による細胞・個体機能の制御	横関 博雄	皮膚科学	7,600	補 日本学術振興会
センサー機能のモーダルシフトによる触覚受容の病的変化のメカニズム	佐藤 貴浩	皮膚科学	12,600	補 日本学術振興会
加齢黄斑変性発症の四次元時空的解明と分子標的治療の確立	井上 芳徳	血管・応用外科学	7,150	補 日本学術振興会
掌蹠多汗症における脳血流の解析	吉野 義一	脳神経外科	1,300	補 日本学術振興会
制御性T細胞誘導による脳梗塞に対する神経再生治療法開発の基礎的研究	川端 茂徳	整形外科	1,300	補 日本学術振興会
前頭眼野と上丘の注視と視線制御に関わる神経基盤	久保田 俊郎	生殖機能協同学	1,040	補 日本学術振興会
フラクタルカイン阻害による血管炎症候群に対する新規治療法の開発	野口 佳裕	耳鼻咽喉科	910	補 日本学術振興会
好酸球・好塩基球を標的とした慢性そう痒性アレルギー疾患治療と痒みの制御の研究	朱 寧進	運動器外科学	1,950	補 日本学術振興会
膀胱癌の浸潤能および化学放射線治療抵抗性獲得におけるp63蛋白の役割の解析	三高 千恵子	救命救急医学	780	補 日本学術振興会
ブランクアッセイ法を応用した細胞障害性HCV株のクローン化と機能解析	根本 繁	血管内治療学	1,170	補 日本学術振興会
消化器癌の難治性メカニズムに基づいた先端的治療開発	大野 京子	眼科学	20,670	補 日本学術振興会
ヒト固形癌の休眠型癌幹細胞とそのニッチ特性の解明	上阪 等	膠原病・リウマチ内科学	43,420	補 日本学術振興会
分化誘導したSH-SY5Y細胞におけるメタンフェタミンの細胞毒性	坂本 直哉	分子肝炎制御学	700	補 日本学術振興会
生体内観察システムによる心血管疾患における白血球遊走過程の解明	水澤 英洋	脳神経病態学	700	補 日本学術振興会
哺乳類細胞を用いたオートファゴソーム形成機構の解析	江石 義信	人体病理学	8,320	補 日本学術振興会
関節リウマチにおける生物学的製剤の長期安全性と副作用リスク因子に関する疫学研究	喜多村 健	耳鼻咽喉科学	4,810	補 日本学術振興会
大腸上皮におけるWnt/Notchシグナルクロストーク機構の解明	太田 英里子	血液浄化療法部	910	補 日本学術振興会
WFS1ノックアウトマウスの聴覚機能評価および難聴発症機構の解明	田中 洋次	脳神経外科	1,300	補 日本学術振興会
HCV変異株培養系を用いたサイトカインシグナル抑制機構の解析	高村 駿人	膠原病・リウマチ内科	2,080	補 日本学術振興会
軟骨細胞分化の分子基盤—Runx1遺伝子組織特異的欠損マウスの作製	大久保 卓哉	脳神経病態学	800	補 日本学術振興会
肝移植保存液の新規開発	沖山 奈緒子	皮膚科	520	補 日本学術振興会
関節リウマチの病態におけるmicroRNAの役割の解明と治療応用の検討	吉井 俊貴	整形外科	1,820	補 日本学術振興会
高齢者蝸牛細胞の遺伝子発現解析による老人性難聴の病態解明	渡辺 守	消化器病態学	1,200	補 文部科学省
プレB細胞レセプターの発現制御機構と急性リンパ性白血病の解明	田中 真二	肝胆臓・総合外科学	1,300	補 文部科学省
エピジェネティック疫学の疾病予防への応用	伊藤 卓	耳鼻咽喉科学	5,200	補 文部科学省
水チャネル輸送機序を標的にした腎性尿崩症の治療法開発	藤原 直之	呼吸器外科学	1,690	補 文部科学省
加齢黄斑変性の発症分子メカニズムの解明	富田 誠	臨床試験管理センター	600	補 文部科学省
新規嚙下障害治療法の開発:大脳嚙下中枢と脳幹CPGを介したアプローチ	山本 浩平	包括病理学	1,170	補 文部科学省
医療の需要とサービス供給の国際的流動化に伴う医療の質の向上	岡本 隆一	消化管先端治療学	1,200	補 文部科学省
白血病幹細胞に対する骨髄微小環境を模した抗白血病薬感受性検査法の開発	土屋 輝一郎	消化器内科	1,430	補 文部科学省
遺伝子多様性データを解明する統合的分析について	太田 哲人	腎臓内科学	1,040	補 文部科学省
成人T細胞白血病細胞における恒常的NF-κB活性化機構の解明と治療標的分子の同定	石橋 哲	神経内科	1,300	補 文部科学省
難聴遺伝子GJB2と6変異による難聴発症機序の解析	溝口 史高	膠原病・リウマチ内科学	1,170	補 文部科学省
遺伝性アトピーを合併する免疫難病の病態解明	西澤 綾	皮膚科学	10,000	補 文部科学省
白血病幹細胞の病態におけるNotchの役割の解明とその阻害薬の感受性検査法の開発	古賀 文隆	泌尿器科	1,300	補 文部科学省
炎症性腸疾患における骨髄IL-7による病原性メモリーT細胞維持機構の解明	駒井 好信	泌尿器科	910	補 文部科学省
CEACAM1による腸管粘膜IL-7ネットワーク調節機構の解明	矢野 晶大	泌尿器科	910	補 文部科学省
エイズパンドミック発生の謎をコンゴ盆地最奥部への探訪で解き明かす研究	高瀬 博	眼科学	12,480	補 文部科学省
プロテオミクス解析手法を用いたアルドステロンの血管細胞への直接作用の解明	堀江 真太郎	眼科	1,430	補 文部科学省
動脈硬化病変形成における細胞性免疫の関与とその制御による新規治療法の開発	林 憲吾	眼科	1,170	補 文部科学省
オートファジーの栄養代謝学的意義の解析	原口 剛	循環器内科	780	補 文部科学省
炎症後色素沈着の機序の解明と低痕痕創傷治療に関する基礎的研究	星野 光伸	神経機能形態学	4,680	補 文部科学省
サブイピン-Hsp90複合体阻害剤による膀胱癌治療モデルの確立	伊藤 真以	臨床検査医学	1,560	補 文部科学省
自然免疫によるヒトT細胞白血病ウイルスI型(HTLV-I)発現の生体内抑制機序	柿沼 晴	分子肝炎制御学	700	補 文部科学省
フルエフェドリンによる細胞毒性機序の解明	中川 美奈	消化器内科	2,990	補 文部科学省
NKT細胞を標的とした潰瘍性大腸炎新規治療法の開発	蘇原 映誠	血液浄化療法部	1,300	補 文部科学省
オートファジーのダイナミクスと生理的意義の解析	小野 真	発生発達病態学	47,900	補 文部科学省
末梢神経損傷に対する低分子Gタンパク質発現制御を標的とした遺伝子治療法の確立	田中 智子	皮膚科	1,560	補 文部科学省
マウス個体におけるcAMPシグナルの光制御を用いた神経機能・神経回路形成の解析	藤川 太郎	頭頸部外科学	2,080	補 文部科学省
先天性免疫不全症における自己免疫疾患・悪性腫瘍の発生・成立機序の解析	高橋 正時	耳鼻咽喉科	780	補 文部科学省
炎症性腸疾患における腸上皮自然炎症調節機構の破綻	向井 香織	皮膚科学	4,550	補 日本学術振興会

小計60件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
高IgE症候群における病態解明	海野 敏紀	脳神経病態学	800	補 日本学術振興会
腎臓における新規の血圧調節機構WNK-NCCシグナル伝達系の解明	鈴木 紀子	分子内分泌内科学	5,070	補 日本学術振興会
日本住血吸虫症流行撲滅を目指した新規サーベイランスツールの開発戦略	萩田 澄彦	血流制御内科学	4,550	補 日本学術振興会
血管肉腫に対するウイルスベクターを用いた新治療の試み	木村 文子	整形外科学	1,170	補 日本学術振興会
危険因子分析法(HAZOP)に基づいた医療安全演習ソフトウェアの開発	阿部 晋也	包括病理学	390	補 日本学術振興会
眼内自然免疫機構と機能分子に関する免疫学的・分子生物学的研究	望月 學	眼科学	3,900	補 日本学術振興会
再生医療・細胞医療製剤に汎用可能な新規微量高感度品質管理・安全性検証システムの開発と製剤の規格化に関する研究	森尾 友宏	発生発達病態学	39,000	補 厚生労働省
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	水澤 英洋	脳神経病態学	86,000	補 厚生労働省
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	渡辺 守	消化器病態学	65,000	補 厚生労働省
難治性腸管吸収機能障害Microscopic colitisに関する調査研究	渡辺 守	消化器病態学	19,500	補 厚生労働省
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	水澤 英洋	脳神経病態学	50,000	補 厚生労働省
難治性慢性痒疹・皮膚そう痒症の病態解析及び診断基準・治療指針の確立	横関 博雄	皮膚科学	19,500	補 厚生労働省
難治性重症原発性局所多汗症の病態解析及び治療指針の確立	横関 博雄	皮膚科学	19,500	補 厚生労働省
毛細血管拡張性小脳失調症の実態調査、早期診断法確立と、病態評価に関する研究	水谷 修紀	発生発達病態学	19,500	補 厚生労働省
成人型分類不能型免疫不全症の診断基準・診断方法の確立及び治療方法の開発に関する研究	森尾 友宏	発生発達病態学	23,400	補 厚生労働省
骨粗鬆症性椎体骨折に対する低侵襲治療法の開発	四宮 謙一	整形外科学	28,500	補 厚生労働省
神経・筋疾患のRNAを用いた画期的治療法の開発	水澤 英洋	脳神経病態学	31,200	補 厚生労働省
難治性眼炎症性疾患に対する網羅的迅速診断システムの開発	望月 學	眼科学	7,000	補 厚生労働省
肝癌早期発見を目的とした分子マーカーおよび画像診断システムの開発	有井 滋樹	肝胆臓・総合外科学	110,500	補 厚生労働省
地理情報システム(GIS)を用いた在宅医療・在宅歯科医療についての実態把握・比較に関する研究	山脇 正永	臨床教育研修センター	3,050	補 厚生労働省
テロ対策等の自然災害以外の健康危機管理時の医療体制に関する研究	大友 康裕	救急災害医学	5,400	補 厚生労働省
「多発性筋炎・皮膚筋炎に合併する間質性肺炎に対するタクロリムスの臨床試験」の調整・管理に関する研究	宮坂 信之	膠原病・リウマチ内科学	42,970	委 治験促進センター
治験の実施に関する研究[タクロリムス水和物]	宮坂 信之	膠原病・リウマチ内科学	325	委 治験促進センター
発がんにおけるゲノム異常誘発の誘因に関する研究(血液悪性腫瘍発症におけるゲノム不安定性の役割)に関する研究	高木 正徳	発生発達病態学分野	1,500	委 国立がん研究センター
小児白血病の原因究明に向けた基盤的研究	水谷 修紀	発生発達病態学分野	6,850	委 国立がん研究センター
ブルギンエ細胞変性の分子病態に基づく診断・治療の開発	水澤 英洋	脳神経病態学	45,668	委 科学技術振興機構
DNA合成の分子イメージング:新しいPET薬剤による脳腫瘍の臨床研究	成相 直	脳神経外科	1,000	委 国立国際医療研究センター
がん医療に資する心のケアに携わる医療従事者の育成に関する研究(患者・家族に対する一次相談における効果的な精神心理的支援を提供するための連携体制の構築に関する研究)	松島 英介	心療・緩和医療学分野	1,000	委 国立がん研究センター
誘電スペクトロサイトメーターの開発	水谷 修紀	発生発達病態学	16,900	委 ソニー株式会社
HCV増殖・既存治療抵抗性・病態を制御する宿主およびウイルス遺伝子の同定	横田 隆徳 坂本 直哉	脳神経病態学	42,000	委 医薬基盤研究所
筋ジストロフィーおよびその関連疾患の分子病態解明、診断法確立と薬物治療の開発に関する研究	水澤 英洋	脳神経病態学	1,000	委 国立精神・神経医療研究センター
東京都における遺伝性(本態性)ニューロパチーの実態の解明	水澤 英洋	脳神経病態学	713	委 東京都
生涯に亘って心身の健康を支える脳の分子基盤・環境要因、その失調の解明	水澤 英洋	脳神経病態学	42,096	委 文部科学省
社会的行動の基盤となる脳機能の計測・支援のための先端的な研究開発	西川 徹	精神行動医科学	37,050	委 文部科学省
シナプスグリアD-セリン系の分子機構解明と統合失調症における病態解析および修復法創出	西川 徹	精神行動医科学	28,652	委 科学技術振興機構
「メタボリック・シンドローム関連疾患における個別化医療の実現」(心房細動関連遺伝子の臨床像との関連解析・機能解析)	磯部 光章	循環制御内科学	1,220	委 文部科学省
がん外科治療における形成再建外科標準術式の確立に関する研究(頭蓋底手術後の再建法の標準化に関する研究)	岡崎 睦	形成外科学	1,300	委 国立がん研究センター

小計37件
計155件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、該当医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合には「補」に、委託の場合には「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Apoptosis. 2010;15:608-620	Enhancement of imatinib-induced apoptosis of BCR/ABL-expressing cells by nutlin-3 through synergistic activation of the mitochondrial apoptotic pathway	Kurosu T	血液内科
Cancer Genet Cytogenet. 2010;199:56-61	Clonal evolution with double Ph followed by tetraploidy in imatinib-treated chronic myeloid leukemia with e19a2 transcript in transformation	Oshikawa G	血液内科
Intern Med. 2010;49:325-329	Autoimmune hemolytic anemia accompanied by reactivation of an Epstein-Barr virus infection with suppressed CTL response to EBV-infected cells in an elderly man	Arai A	血液内科
Int J Hematol. 2010;92:179-185	Concurrent administration of intravenous systemic and intravitreal methotrexate for intraocular lymphoma with central nervous system involvement	Nakauchi Y	血液内科
J Dermatol (in press)	A novel mutation in the ATP2A2 gene in a Japanese Darier's disease patient with extremely hyperkeratotic lesions	Miyabe C	膠原病・リウマチ内科
J Cell Biochem 109(5):866-875, 2010	Osteoclast-specific Dicer gene deficiency suppresses osteoclastic bone resorption.	Mizoguchi	膠原病・リウマチ内科
Mod Rheumatol (in press)	Therapeutic effect of D1-like dopamine receptor antagonist on collagen-induced arthritis of mice	Nakashioya H	膠原病・リウマチ内科
J Dermatol Sci (in press)	Addition of the collagen binding domain of fibronectin potentiates the biochemical availability of hepatocyte growth factor for cutaneous wound healing	Okiyama N	膠原病・リウマチ内科
Mod Rheumatol (in press)	The REAL database reveals no significant risk of serious infection during treatment with a methotrexate dose of more than 8 mg/week in patients with rheumatoid arthritis	Sakai R	膠原病・リウマチ内科
Mod Rheumatol 20(3):244, 2010	The effect of synthetic retinoid, Am80, on T helper cell development and antibody production in murine collagen-induced arthritis	Sato A	膠原病・リウマチ内科
Immunol Lett 128(1), 39-46, 2010	Expression of CD45 isoforms correlates with differential proliferative responses of peripheral CD4+ and CD8+ T cells	Seki I	膠原病・リウマチ内科
Arthritis Rheum 62(10), 3088-3092, 2010	Definitive engagement of cytotoxic CD8 T cells in C-protein induced myositis, a murine model of polymyositis	Sugihara T	膠原病・リウマチ内科
Ann Rheum Dis 69(7):1286-1291, 2010	RRR Study investigators. Discontinuation of infliximab after attaining low disease activity in patients with rheumatoid arthritis: RRR (remission induction by Remicade in RA) study	Tanaka Y	膠原病・リウマチ内科
Int Immunol (in press)	Anti-arthritis effect of E3 ubiquitin ligase, c-MIR, expression in the joints	Toyomoto M	膠原病・リウマチ内科
Arthritis Rheum 62(11):3211, 2010	Pathogenic role of CXCR7 in rheumatoid arthritis	Watanabe K	膠原病・リウマチ内科
J Am Coll Cardiol, 55:904-913, 2010	Ultrasound-Microbubble Mediated ICAM-1 siRNA Transfection Attenuates Neointimal Formation after Arterial Injury in Mice	Isobe M	循環器内科
Heart 96: 523-527, 2010(Apr)	Early treatment with clarithromycin attenuates rat autoimmune myocarditis via inhibition of matrix metalloproteinase activity	Isobe M	循環器内科
J Cardiol 56: 220-228, 2010	Improved long-term performance of pulsatile extracorporeal left ventricular assist device	Sasaoka	循環器内科
Expert Opin Ther Targets. 14(9):1-13,2010	Clarithromycin attenuates myocardial ischemia reperfusion injury	Isobe M	循環器内科
Cir Arrhythm Electrophysiol 3: 465-471, 2010	Clinical characteristics of patients with persistent atrial fibrillation successfully treated by left atrial ablation	Isobe M	循環器内科
心臓 42 suppl2 : 165-171,2010	冠臓縮性狭心症による心室細動の2次予防目的でICD植え込みを施行した5例	福薬理	循環器内科
Inflam Bowel Dis. 2010 (in press)	MR enterocolonography is useful for simultaneous evaluation of small and large intestinal lesions in Crohn's disease	Hyun SB, Kitazume Y, Nagahori M, Akira T, Fujii T, Tsuchiya K, Suzuki S, Okada E, Araki A, Naganuma M, Watanabe M	消化器内科
J Gastroenterol. 45:911-917, 2010	Inflammatory bowel disease in children: epidemiological analysis of the nationwide IBD registry in Japan	Ishige T, Tomomasa T, Takebayashi T, Asakura K, Watanabe M, Suzuki T, Miyazawa R, Arakawa H	消化器内科
J Gastroenterol. 2010 (in press)	Longitudinal cell formation in the entire human small intestine is correlated with the localization of Hath1 and Klf4	Iwasaki M, Tsuchiya K, Okamoto R, Zheng X, Kano Y, Okamoto E, Okada E, Araki A, Suzuki S, Sakamoto N, Kitagaki K, Akashi T, Eishi Y, Nakamura T, Watanabe M	消化器内科
Antimicrobial Agents and Chemotherapy. 54:3178- 3186, 2010	Inhibition of Hepatitis C Virus Replication by a Specific Inhibitor of Serine-Arginine-Rich Protein Kinase	Karakama Y, Sakamoto N, Itsui Y, Nakagawa M, Tasaka-Fujita M, Nishimura-Sakurai Y, Kakinuma S, Oooka M, Azuma S, Tsuchiya K, Onogi H, Hagiwara M, Watanabe M	消化器内科

計 25件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Gastroenterol. 2010 (in press)	Pretreatment prediction of response to peginterferon plus ribavirin therapy in genotype 1 chronic hepatitis C using data mining analysis	Kurosaki M, Sakamoto N, Iwasaki M, Sakamoto M, Suzuki Y, Hiramoto N, Sugauchi F, Yatsuhashi H, Izumi N	消化器内科
J Hepatol. 2010 (in press)	Pre-treatment prediction of response to pegylated-interferon plus ribavirin for chronic hepatitis C using genetic polymorphism in IL28B and viral factors	Kurosaki M, Tanaka Y, Nishida N, Sakamoto N, Enomoto N, Honda M, Sugiyama M, Matsuura K, Sugauchi F, Asahina Y, Nakagawa M, Watanabe M, Sakamoto M, Maekawa S, Sakai A, Kaneko S, Ito K, Masaki N, Tokunaga K, Izumi N, Mizokami M	消化器内科
J Gastroenterol. 45:195-203, 2010	Inhibition of hepatitis C virus replication by chloroquine targeting virus-associated autophagy	Mizui T, Yamashita S, Tanida I, Takashima M, Takei Y, Ueno T, Sakamoto N, Ikejima K, Kitamura T, Enomoto N, Sakai T, Kominami E, Watanabe S	消化器内科
J Gastroenterol. 45:1008-1013, 2010	Prevalence of metabolic syndrome is comparable between inflammatory bowel disease patients and the general population	Nagahori M, Hyun SB, Totsuka T, Okamoto R, Kuwahara E, Takebayashi T, Naganuma M, Watanabe M	消化器内科
J Crohn's Colitis. 2010 (in press)	Safety and usefulness of balloon endoscopy in Crohn's disease patients with postoperative ileal lesions	Naganuma M, Watanabe M, Hibi T	消化器内科
J Gastroenterol. 45:936-943, 2010	Novel endoscopic activity index is useful for choosing treatment in severe active ulcerative colitis patients	Naganuma M, Ichikawa H, Inoue N, Kobayashi T, Okamoto S, Hisamatsu T, Kanai T, Ogata H, Iwao Y, Hibi T	消化器内科
J Gastroenterol. 45:656-665, 2010	Mutations in the interferon sensitivity determining region and virological response to combination therapy with pegylated-interferon alpha 2b plus ribavirin in patients with chronic hepatitis C-1b infection	Nakagawa M, Sakamoto N, Ueyama M, Mogushi K, Nagae S, Itsui Y, Azuma S, Kakinuma S, Tanaka H, Enomoto N, Watanabe M	消化器内科
Hepatology Research. 40(11):1063-1071, 2010	ITPA gene variant protects against anemia induced by pegylated interferon-alpha and ribavirin therapy for Japanese patients with chronic hepatitis C	Sakamoto N, Tanaka Y, Nakagawa M, Yatsuhashi H, Nishiguchi S, Enomoto N, Azuma S, Nishimura-Sakurai Y, Kakinuma S, Nishida N, Tokunaga K, Honda M, Ito K, Mizokami M, Watanabe M	消化器内科
Virology. 407:80-90, 2010	IL-6-mediated intersubgenotypic variation of interferon sensitivity in hepatitis C virus genotype 2a/2b chimeric clones	Suda G, Sakamoto N, Itsui Y, Nakagawa M, Mishima K, Onuki-Karakama Y, Yamamoto M, Funaoka Y, Watanabe T, Kiyohashi K, Nitta S, Azuma S, Kakinuma S, Tsuchiya K, Imamura M, Hiraga N, Chayama K, Watanabe M	消化器内科
Esophagus 2010; 7: 87-93	The current status of recurrent and residual treatment after an esophagectomy; what method of treatment should be performed and how?	Nakajima Y, Okada T, Miyawaki Y, Hoshino A, Suzuki T, Haruki S, Kawada K, Nishikage T, Nagai K, Kawano T	血管外科 食道・胃外科
Digestive Endoscopy, 2010; 22:10-16 (DOI: 10.1111/j. 1443-1661.2009.00931.x)	Endoscopic observation of esophageal squamous cell carcinoma	Kumagai Y, Kawada K, Yamazaki S, Iida M, Ochiai T, Momma K, Odajima H, Kawachi H, Nemoto T, Kawano T, Takubo K	血管外科 食道・胃外科
Carcinogenesis 2010; 31: 1027-1036	Frequent silencing of protocadherin 17, a candidate tumour suppressor for esophageal squamous cell carcinoma	Haruki S, Imoto I, Kozaki K, Matsui T, Kawachi H, Komatsu S, Muramatsu T, Shimada Y, Kawano T, Inazawa J	血管外科 食道・胃外科
Therapeutic Research 2010;31: 513-518	下部食道癌と Barrett 食道の臨床診断	萩谷一男, 河野辰幸	血管外科 食道・胃外科
新薬と臨床 2010;59:1311-1314	経鼻内視鏡による咽喉頭・食道領域の内視鏡診断	川田研郎, 太田俊介, 岡田卓也, 宮脇 豊, 星野明弘, 鈴木友宜, 中島康晃, 西蔭徹郎, 永井 鑑, 河野辰幸	血管外科 食道・胃外科
消化器内視鏡 2010;22:969-977	経鼻・極細径内視鏡による食道癌スクリーニング	川田研郎, 河野辰幸, 永井 鑑, 西蔭徹郎, 中島康晃, 若木茂男, 鈴木友宜, 星野明弘, 宮脇 豊, 岡田卓也, 太田俊介, 河内 洋, 杉本太郎	血管外科 食道・胃外科
胃と腸 2010;45:228-239	中・下咽頭表在癌の内視鏡診断 経鼻内視鏡の立場から	川田研郎, 河野辰幸, 永井 鑑, 西蔭徹郎, 中島康晃, 若木茂男, 鈴木友宜, 星野明弘, 宮脇 豊, 岡田卓也	血管外科 食道・胃外科
分光画像内視鏡カラーアトラス 分光画像内視鏡研究会編 河野辰幸監修 診断と治療社 2010	咽喉頭, 食道	川田研郎 他	血管外科 食道・胃外科
Ann Surg Oncol. 17 (4): 973-980, 2010	Is total mesorectal excision always necessary for T1-T2 low rectal cancer?	Kobayashi H, Sugihara K	乳癌外科 大腸・肛門外科
Cancer Inform. 29 (9): 147-161, 2010	Clinical omics analysis of colorectal cancer incorporating copy number aberrations and gene expression data	Yoshida T, Kobayashi H, Sugihara K	乳癌外科 大腸・肛門外科
Oncology Letters 1 (5): 865-872, 2010	Methylated BNP3 gene in colorectal cancer prognosis	Shimizu S, Sugihara K	乳癌外科 大腸・肛門外科
Dig Surg. 27 (6): 473-480, 2010	Validation and clinical use of the Japanese classification of colorectal carcinomatosis: benefit of surgical cytoreduction even without hyperthermic intraperitoneal chemotherapy	Kobayashi H, Enomoto M, Sugihara K	乳癌外科 大腸・肛門外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Cancer 127 (10): 2292-2299, 2010	MUC12 mRNA expression is an independent marker of prognosis in stage II and stage III colorectal cancer	Matsuyama T, Ishikawa T, Sugihara K	乳腺外科 大腸・肛門外科
癌と化学療法. 37 (12): 2539-2541, 2010	化学療法後肝切除を施行し25ヶ月の生存を得た大腸癌同時性肝・肺転移の1例	菊池章史, 石川敏昭, 杉原健一	乳腺外科 大腸・肛門外科
癌と化学療法. 37(12):2514-2516, 2010	肝動注後CapeOX + Bevacizumab療法が有効であった大腸癌多発肝転移の1例	山内慎一, 植竹宏之, 杉原健一	乳腺外科 大腸・肛門外科
癌と化学療法. 37(12):2620-2622, 2010	メシル酸イマチニブ投与後に切除した直腸GISTの1例	小林宏寿, 植竹宏之, 杉原健一	乳腺外科 大腸・肛門外科
癌と化学療法. 37(12):2433-2435, 2010	切除不能な進行直腸S状部・胃重複癌に対して集学的治療を行い胃病変の局所制御にFOLFIRI療法が有効であった1例	青柳治彦, 杉原健一	乳腺外科 大腸・肛門外科
癌と化学療法. 37(12):2560-2562, 2010	大腸粘液癌の再発形式の検討	樋口哲郎, 杉原健一	乳腺外科 大腸・肛門外科
日本臨床外科学会雑誌. 71 (12): 3171-3176, 2010	肝転移との鑑別が困難であったS状結腸癌併存肝腫瘍の1例	青柳治彦, 杉原健一	乳腺外科 大腸・肛門外科
癌と化学療法. 37 (12): 2750-2752, 2010	当院での乳癌に対するラジオ波熱凝固療法を試み	佐藤隆實	乳腺外科 大腸・肛門外科
J Hepatology 52:63-71 2010	The selective Aurora B kinase inhibitor AZD 1152 as a novel treatment for hepatocellular carcinoma	Aihara A, Tanaka S, Yasen M, Matsumura S, Mitsunori Y, Murakata A, Noguchi N, Kudo A, Nakamura N, Ito K, Arai S	肝胆膵外科
Journal of Surgical Research 159(1):572-581, 2010	Preservation solutions alter mrp2-dependent bile flow in cold ischemic rat livers	Sui S, Kudo A, Suematsu M, Tanaka S, Nakamura N, Ito K, Arai S	肝胆膵外科
Tissue Eng Part A. 2010 Mar;16(3):933-42	Isolating Osteogenic Progenitor Cells From Trabecular Bone For Bone Tissue Engineering	Yoshii T, Sotome S, Torigoe I, Maehara H, Sugata Y, Yamada T, Shinomiya K, Okawa A	整形外科
Biomed Mat Res B Appl Biomater. 2010 Jan;92(1):161-7	Effects of gamma-ray irradiation on mechanical properties, osteoconductivity, and absorption of porous hydroxyapatite/collagen	Kawasaki Y, Sotome S, Yoshii T, Torigoe I, Maehara H, Sugata Y, Hirano M, Mochizuki N, Shinomiya K, Okawa A	整形外科
J Orthop Science 15(3) :371-380, 2010	Diagnosis of incomplete conduction block of spinal cord from skin surface using spinal cord evoked magnetic fields Journal of Orthopaedic	Masaki Tomori, Shigenori Kawabata, Shoji Tomizawa, Senichi Ishii, Kenichi Shinomiya, Atsushi Okawa, et al	整形外科
日本整形外科学会雑誌(0021-5325)84巻4号 PageS726(2010.04)	両側一期的人工股関節置換術におけるステムデザインの違いによる骨リモデリング様式と骨密度分布の違いについての検討(金鐘録)	山内裕樹, 神野哲也, 麻生義則, 古賀大介, 森田定雄, 宗田大, 大川淳, 四宮謙一	整形外科
脊髄機能診断学. 32(1):93-100, 2011	末梢神経刺激による脊髄誘発磁界測定を用いた脊髄障害高位診断法の検討	神経平, 川端茂徳, 石井寛一, 臺灣将司, 大川淳, 四宮謙一	整形外科
東日本整形災害外科雑誌 vol22:46-51, 2010	股関節疾患における股関節ブロックの有用性についての検討	山内裕樹, 神野哲也, 麻生義則, 古賀大介, 森田定雄, 宗田大, 四宮謙一	整形外科
Am J Sports Med 38(11):2218-2225, 2010	Mechanisms for Noncontact Anterior Cruciate Ligament Injuries: Knee Joint Kinematics in 10 Injury Situations From Female Team Handball and Basketball	Koga H	整形外科 (運動器外科)
Osteoarthritis and cartilage 18:1300-9, 2010	Magnesium enhances adherence and cartilage formation of synovial mesenchymal stem cells through integrins	Shimaya M	整形外科 (運動器外科)
ARTHRITIS & RHEUMATISM Vol. 62(5): 1329-1337, 2010	Osteopontin Deficiency Impairs Wear Debris-Induced Osteolysis via Regulation of Cytokine Secretion From Murine Macrophages	Shimizu S	整形外科 (運動器外科)
AAPS PharmSciTech. 11(1):154-8, 2010	Ketoprofen absorption by muscle and tendon after topical or oral administration in patients undergoing anterior cruciate ligament reconstruction	Sekiya I	整形外科 (運動器外科)
J Orthop Res 28, 384-389, 2010	Conditional deletion of BMP7 from the limb skeleton does not affect bone formation or fracture repair	Tsuji, K	整形外科 (運動器外科)
Journal of Orthopaedic Research, 28: 1502-1506, 2010	Intra-articular injections of bone morphogenetic protein-7 retard progression of existing cartilage degeneration	Hayashi M	整形外科 (運動器外科)
Arthritis Res Ther., 12(6):R208, 2010	Intradiscal transplantation of synovial mesenchymal stem cells prevents intervertebral disc degeneration through suppression of matrix metalloproteinase-related genes in nucleus pulposus cells in rabbits	Miyamoto T	整形外科 (運動器外科)
Arthroscopy. 26(6):769-81, 2010	Revision anterior cruciate ligament reconstruction by double-bundle technique using multi-strand semitendinosus tendon	Muneta T	整形外科 (運動器外科)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. (in press)	Radiographic description of femoral tunnel placement expressed as intercondylar clock time in double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction	Yamazaki J	整形外科 (運動器外科)
Am J Sports Med. (in press)	Hip Acetabular Dysplasia and Joint Laxity of Female Anterior Cruciate Ligament-Injured Patients	Yamazaki J	整形外科 (運動器外科)
J Orthop Surg Res. 2010 Oct 12;5:73	Repair of olecranon fractures using fiberWire without metallic implants: report of two cases	Nimura A	整形外科 (運動器外科)
BMC Musculoskelet Disord. 2010 Sep 14;11:208	Analysis of human synovial and bone marrow mesenchymal stem cells in relation to heat-inactivation of autologous and fetal bovine serums	Nimura A	整形外科 (運動器外科)
Urology, 75: 713-17, 2010	A novel technique to prevent postradical retropubic prostatectomy inguinal hernia: the processus vaginalis transection method	Fujii Y	泌尿器科
Aktuelle Urologie, 41: S15-S19, 2010	Minimum incision endoscopic surgery (MIES) in Japanese Urology: results of adrenalectomy, radical nephrectomy and radical prostatectomy	Kihara K	泌尿器科
Urology, 75:387-391, 2010	Initial Experience of Diffusion-weighted Magnetic Resonance Imaging to Assess Therapeutic Response to Induction Chemoradiotherapy Against Muscle-invasive Bladder Cancer	Yoshida S	泌尿器科
日本ミニマム創内視鏡外科学会雑誌, 2 (1): 131-134, 2010	術後 CRP の経時的変化に基づくミニマム創内視鏡下前立腺全摘除の侵襲性と抗菌薬単回内服投与の解析	駒井好信	泌尿器科
日本ミニマム創内視鏡外科学会雑誌, 2 (1): 191-195, 2010	Martin Criteriaに基づくミニマム創内視鏡下前立腺全摘除における合併症の評価-16名の術者における検討-	駒井好信	泌尿器科
Br J Ophthalmol, 2010; 94: 336-340	A significant association of viral loads with corneal endothelial cell damage in cytomegalovirus anterior uveitis	Miyanaga M, Sugita S, Shimizu N, Morio T, Miyata K, Maruyama K, Kinoshita S, Mochizuki M	眼科
Int J Hematol, 2010; 92: 179-185	Concurrent administration of intravenous systemic and intravitreal methotrexate for intraocular lymphoma with central nervous system involvement	Nakauchi Y, Takase H, Sugita S, Mochizuki M, Shibata S, Ishiwata Y, Shibuya Y, Yasuhara M, Miura O, Arai A	眼科
Br J Ophthalmol, 2010; 94: 284-8	Comparison of infliximab versus ciclosporin during the initial 6-month treatment period in Behçet disease	Yamada Y, Sugita S, Tanaka H, Kamoi K, Kawaguchi T, Mochizuki M	眼科
Br J Ophthalmol, 2010; 95: 205-8	Timing of recurrent uveitis in patients with Behçet's disease on infliximab therapy	Yamada Y, Sugita S, Tanaka H, Kamoi K, Takase H, Mochizuki M	眼科
Audiology Japan 53:224-31, 2010	本邦における埋め込み型骨導補聴器(Bone-Anchored Hearing Aid: BAHA) 治療-補聴器との比較について	喜多村健	耳鼻咽喉科
Acta Otolaryngol 130: 1002-8, 2010	Novel ATP6V1B1 mutations in distal renal tubular acidosis and hearing loss	Noguchi Y	耳鼻咽喉科
J Med Dent Sci 57: 45-53, 2010	Clinical prognostic factors for tinnitus retraining therapy with a sound generator in tinnitus patients	Ariizumi Y	耳鼻咽喉科
J Hum Genet. 55: 147-54, 2010	Extensive and rapid screening for major mitochondrial DNA point mutations in patients with hereditary hearing loss	Kato T	耳鼻咽喉科
J Med Dent Sci 57: 11-5, 2010	A 24-month-follow-up study of argon plasma coagulation of the inferior turbinate in patients with perennial nasal allergy	Iwasaki A	耳鼻咽喉科
Laryngoscope 120: 166-71, 2010	Additional heterozygous 2507A>C mutation of WFS1 in progressive hearing loss at lower frequencies	Noguchi Y	耳鼻咽喉科
耳鼻臨床 103:1115-9, 2010	マイクロデブリッターによる成人型多発性喉頭乳頭腫手術の2例	喜多村健	耳鼻咽喉科
Auris Nasus Larynx 37(2):217-219,2010	Nasal downward swing approach coupled with the facial dismasking flap	S Kishimoto	頭頸部外科
Int J Radiat Oncol Biol Phys in-press	Proton Beam Therapy for unresectable malignancies of the nasal cavity and paranasal sinuses	Zenda S	頭頸部外科
Int J Radiat Oncol Biol Physics	Proton Beam Therapy as a Non-surgical Approach to Mucosal Melanoma of the Head and Neck: A Pilot Study	Zenda S	頭頸部外科
Auris Nasus Larynx	Parapharyngeal space tumors: Anatomical and image analysis findings	Shirakura S	頭頸部外科
Ann Nucl Med. 2011; 25: 173-8	Normal variants of bowel FDG uptake in dual-time-point PET/CT imaging	Toriihara A	放射線科
Br J Radiol. 2011; 84: 747-9	Brachytherapy for tongue cancer in very elderly is an alternative to external radiation	Shibuya H	放射線科
日臨麻会誌 30:1050-3, 2010	Successful sciatic nerve block for a patient with severe coronary artery disease who underwent arterial thrombectomy	Ito H, Makita K	麻酔科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Neurosci Res. 2010;88:234-247	Efficient generation of mature cerebellar Purkinje cells from mouse embryonic stem cells	Tao O, Mizusawa H	神経内科
Nucl Med Commun. 2010;31:159-66	Competition between 11C-raclopride and endogenous dopamine in Parkinson's disease	Ishibashi K, Mizusawa H	神経内科
Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2010;37:3-11	Validation of cardiac (123I)-MIBG scintigraphy in patients with Parkinson's disease who were diagnosed with dopamine PET	Ishibashi K, Mizusawa H	神経内科
Acta Neuropathol 2010; 119:447-64	The carboxy-terminal fragment of α 1A-calcium channel preferentially aggregates in the cytoplasm of human spinocerebellar ataxia type 6 Purkinje cells	Ishiguro T, Ishikawa K, Mizusawa H	神経内科
Brain 2010;133:3043-57	Prospective 10-years surveillance for human prion diseases in Japan	Sanjo N, Mizusawa H	神経内科
Lancet Neurol 2010;9:875-884	Japan SBMA Interventional Trial for TAP-144-SR (JASMITT) study group. Efficacy and safety of leuprorelin in patients with spinal and bulbar muscular atrophy (JASMITT study): a multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled trial	Mizusawa H	神経内科
Neuropathology 2010;30:490-494	The chromosome 16q-linked autosomal dominant cerebellar ataxia (16q-ADCA*): A newly identified degenerative ataxia in Japan showing peculiar morphological changes of the Purkinje cell	Ishikawa K, Mizusawa H	神経内科
J Neurol Sci. 2010;292:81-4	The effect of 3, 4-diaminopyridine on the patients with hereditary pure cerebellar ataxia	Mizusawa H	神経内科
J Neurosci Res. 2010;88:3598-609	Transplantation of neuronal cells induced from human mesenchymal stem cells improves neurological functions after stroke without cell fusion	Miki K, Ishibashi S, Mizusawa H	神経内科
OR研究 2010;31:233-239	プリオン病画像小委員会. 脳外科手術によるCJDリスク保因可能性者事例の経過と注意すべきプリオン病画像診断のポイント	三條伸夫, 水澤英洋	神経内科
Human Gene Therapy. 2011; 22: 27-34.	In Vivo Application of an RNAi Strategy for the Selective Suppression of a Mutant Allele.	Yokota T	神経内科
Muscle Nerve. 2011;43:274-82.	Motor nerve conduction study in cauda equina with high-voltage electrical stimulation in multifocal motor neuropathy and amyotrophic lateral sclerosis.	Akaza M, Yokota T	神経内科
Nat Med. 2011;17:175-8	Ultrasensitive human prion detection in cerebrospinal fluid by real-time quaking-induced conversion	Mizusawa H	神経内科
Biochem Biophys Res Commun. 2011;405:204-9	Intraperitoneal AAV9-shRNA inhibits target expression in neonatal skeletal and cardiac muscles	Yokota T	神経内科
Artif Organs. 2010 Sep;34(9):778-83	Development of a disposable magnetically levitated centrifugal blood pump (MedTech Dispo) intended for bridge-to-bridge applications—two-week in vivo evaluation	Eiki Nagaoka	心臓血管外科
General Thoracic and Cardiovascular Surgery 2009, 57: 585-590	Survival and Relapse Pattern after Trimodality Therapy for Malignant Pleural Mesothelioma.	Okubo K, Sonobe M, Fujinaga T, Shoji T, Sakai H, Miyahara R, Bando T, Date H, Shibuya K, Hiraoka M.	呼吸器外科
Intern. Med. 49:837-40, 2010	Calcium-alkali syndrome-like symptoms manifested by daily alphacalcidol and thiazide	Okada T	血液浄化療法部
Biochem. Biophys. Res. Commun. 393:844-8, 2010	Effect of angiotensin II on the WNK-OSR1/SPAK-NCC phosphorylation cascade in cultured mpkDCT cells and in vivo mouse kidney	Naïto S	血液浄化療法部
Acta. Otolaryngol. 130:1002-8, 2010	Novel ATP6V1B1 mutations in distal renal tubular acidosis and hearing loss	Rai T	血液浄化療法部
無酢酸透析液;臨床透析, Vol.26, NO.5, 2010, P615-620	血液浄化療法・基礎から応用まで	菅野有造	血液浄化療法部
日本臨床工学会透析液等WG、先端医学社、2010、P108-124	6.化学物質汚染対策;透析液安全管理マニュアル	菅野有造	血液浄化療法部
透析液浄化に向けて、秋澤忠男監修、医薬ジャーナル社、2010、P176-184	6.細菌検出法 1)各種細菌検出法とその注意点	菅野有造	血液浄化療法部
臨床体液 37 : 65-68, 2010	重篤な急性腎障害をきたした悪性高血圧症の1症例	岡戸文和	血液浄化療法部
Journal of Biomechanics 43: 2915-2922, 2010	Three-dimensional motion of the upper extremity joints during various activities of daily living	Sadao Morita	リハビリテーション
J Med Dent Sci, 57(2):1-6, 2010	Secondary hyperbaric oxygen therapy for idiopathic sudden sensorineural hearing loss in the subacute and chronic phases	Ohno K	高気圧治療部
日本高気圧環境・潜水医学会雑誌. 45(1):1-6, 2010	酸素減圧によるスクーバダイビングでの酸化ストレスと抗酸化力の変化	鈴木直子	高気圧治療部
Journal of Spine Research. 1(7):1242-1247, 2010	【From In-House Design to Standardization Reliable Evidenceを求めて】高気圧酸素療法による腰部脊柱管狭窄症の保存療法	加藤剛	高気圧治療部
日本輸血細胞治療学会雑誌 56:52-56, 2010	輸血用血液製剤の血液型確認検査の自動化と、コンピュータクロスマッチに対応した輸血管理システムの構築	大友直樹	輸血部

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Med Dent Sci 57(2):165-75,2010	Predictive value of CD24 and CD44 for neoadjuvant chemotherapy response and prognosis in primary breast cancer patients	Horiguchi K, Toi M, Horiguchi S, Sugimoto M, Naito Y, Hayashi Y, Ueno T, Ohno S, Funata N, Kuroi K, Tomita M, Eishi Y	病理部
J Med Dent Sci 57(1):65-74,2010	Quantitative PCR of Propionibacterium acnes DNA in samples aspirated from sebaceous follicles on the normal skin of subjects with or without acne	Miura Y, Ishige I, Soejima N, Suzuki Y, Uchida K, Kawana S, Eishi Y	病理部
J Gastroenterol 45(7):703-12,2010	López-Bastida J. Diagnostic accuracy of immunochemical versus guaiac faecal occult blood tests for colorectal cancer screening	Parra-Blanco A, Gimeno-García AZ, Quintero E, Nicolás D, Moreno SG, Jiménez A, Hernández-Guerra M, Carrillo-Palau M, Eishi Y	病理部
Dis Esophagus 23(5):398-407,2010	Independent histological risk factors for lymph node metastasis of superficial esophageal squamous cell carcinoma; implication of claudin-5 immunohistochemistry for expanding the indications of endoscopic resection	Chiba T, Kawachi H, Kawano T, Kumagai J, Kitagaki K, Sekine M, Uchida K, Kobayashi M, Sugihara K, Eishi Y	病理部
Breast Cancer 17(4):290-7,2010	Apocrine metaplasia of breast cancer: clinicopathological features and predicting response	Ogita A, Horii R, Osako T, Ito Y, Iwase T, Eishi Y, Akiyama F	病理部
Acta Otolaryngol 130(3):344-50,2010	Quantitative cellular level analysis of mitochondrial DNA 3243A > G mutations in individual tissues from the archival temporal bones of a MELAS patient	Koda H, Kimura Y, Ishige I, Eishi Y, Iino Y, Kitamura K	病理部
J Am Coll Surg. 211; 338-46, 2010	Effect of Pre-existing Medical Conditions on In-Hospital Mortality: Analysis of 20,257 Trauma Patients in Japan	Shoko T	救命救急センター
Am J Surg 199; e23-e24, 2010	Multiple abdominal granuloma caused by spilled gallstones with imaging findings that mimic malignancy	Morishita K	救命救急センター
日本腹部救急医学会雑誌 30(4); 607-6011, 2010	保存的治療にて軽快した門脈ガス血症の2症例	森下幸治	救命救急センター
Eur J Pediatr. 2010;169:83 9-44	Successful cord blood transplantation for a CHARGE syndrome with CHD7 mutation showing DiGeorge sequence including hypoparathyroidism	Inoue H, Takada H, Kusuda T, Goto T, Ochiai M, Kinjo T, Muneuchi J, Takahata Y, Takahashi N, Morio T, Kosaki K, Hara T	細胞治療センター
Blood. [Epub ahead of print 2010 Nov 9.]	Autoimmune lymphoproliferative syndrome-like disease with somatic KRAS mutation	Takagi M, Shinoda K, Piao J, Mitsuiki N, Takagi M, Matsuda K, Muramatsu H, Doisaki S, Nagasawa M, Morio T, Kasahara Y, Koike K, Kojima S, Takao A, Mizutani S	細胞治療センター
Br J Haematol. Jul 31, 2010 [Epub ahead of print]	Diagnosis of bacterial endophthalmitis by broad-range quantitative PCR	Sugita S, Shimizu N, Watanabe K, Katayama M, Horie S, Ogawa M, Sugimoto Y and Mochizuki M	細胞治療センター
Br. J. Ophthalmol. 2010; 94:336-40	A significant association of viral loads with corneal endothelial cell damage in cytomegalovirus anterior uveitis	Miyagawa M, Sugita S, Shimizu N, Morio T, Miyata K, Maruyama K, Kinoshita S, Mochizuki M	細胞治療センター
Immunology. 2010; 128(3):405-19	Ex vivo expanded cord blood CD4 T lymphocytes exhibit a distinct expression profile of cytokine-related genes from those of peripheral blood origin	Miyagawa Y, Kiyokawa N, Ochiai N, Imadome K, Horiuchi Y, Onda K, Yajima M, Nakamura H, Katagiri Y, Okita H, Morio T, Shimizu N, Fujimoto J. and Fujiwara S	細胞治療センター
Lab Invest. 2010; 90(2):210-21	Morphological differences during in vitro chondrogenesis of bone marrow-, synovium- MSCs, and chondrocytes	Ichinose S, Muneta T, Koga H, Segawa Y, Tagami M, Tsuji K, Sekiya I	細胞治療センター
Osteoarthritis and cartilage. 2010;18: 1300-9	Magnesium enhances adherence and cartilage formation of synovial mesenchymal stem cells through integrins	Shimaya M, Muneta T, Ichinose S, Tsuji K, I Sekiya I	細胞治療センター
Arthritis Res Ther. 2010; 12(6):R206.PDF	Intradiscal transplantation of synovial mesenchymal stem cells prevents intervertebral disc degeneration through suppression of matrix metalloproteinase-related genes in nucleus pulposus cells in rabbits	Miyamoto T, Muneta T, Tabuchi T, Matsumoto K, Saito H, Tsuji K, Sekiya I	細胞治療センター
J Neurosci Res. 2010; 88(16):3598-609	Transplantation of neuronal cells induced from human mesenchymal stem cells improves neurological functions after stroke without cell fusion	Xu H, Miki K, Ishibashi S, Inoue J, Sun L, Endo S, Sekiya I, Muneta T, Inazawa J, Dezawa M, Mizusawa H	細胞治療センター
BMC Musculoskelet Disord. 2010; 11:208	Analysis of human synovial and bone marrow mesenchymal stem cells in relation to heat-inactivation of autologous and fetal bovine serums	Nimura A, Muneta T, Otabe K, Koga H, Ju YJ, Mochizuki T, Suzuki K, Sekiya I	細胞治療センター

計 19件

合計 144件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 宮坂 信之		
管理担当者氏名	(総務課長) 菅瀬 真生	(管理課長) 長塚 正明	(医事課長) 三上 隆美

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 ①処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 ②病院日誌、各科診療日誌 ③エックス線写真		① 病歴管理室 ② 総務課 ③ 各診療科	[入院カルテ] 入院中は当該病棟で管理し退院後は病歴管理室で一括管理している。 [外来カルテ] 病歴管理室で一括管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	管理課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
①入院患者数、外来患者 ②調剤の数を明らかにする帳簿	① 医事課 ② 薬剤部		
第規一則号第一に掲げる十の体制第一項の各号及び第九の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理対策室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理対策室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理対策室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理対策室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	安全管理対策室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	安全管理対策室	
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者相談室		

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	院内感染対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	安全管理対策室
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	安全管理対策室
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	安全管理対策室
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	安全管理対策室
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	安全管理対策室
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	安全管理対策室
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	安全管理対策室		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	安全管理対策室		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	(事務部長) 谷田 弘
閲覧担当者氏名	(総務課長) 菅瀬 真生
閲覧の求めに応じる場所	病院1階会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	76.8 %	算定期間	平成22年 4月 1日～平成23年 3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		17,021 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,257 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		5,802 人
	D: 初診の患者の数		32,185 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○インフォームドコンセントを徹底した患者本位の全人的医療、安全な医療の提供を行う。○医療現場でのインシデント報告を通しての検証及び事故防止対策を策定・実施する。○医療における基本の徹底と質の向上を図る。○上記の目的を実施するため、次の機構を組織 <p>(1) 安全管理委員会…本院における医療事故防止に関する方策の検討・実施、各種マニュアルの策定及び研修等を行う。</p> <p>(2) リスクマネージャー会議…各診療科、中央診療部門の中核となる実務者で構成し、日常における安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止につとめる。</p> <p>(3) 安全管理対策室…安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関する適宜マニュアルの追加並びに指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">○患者からの相談に対応するため、院内に患者相談室を置き、必要に応じ、関連部署との連絡調整を行い、相談内容を適切に処理する。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 20 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○医療事故防止に関する方策の検討・実施、各種マニュアルの策定及び研修等を行う。○安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止につとめる。○安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関する指導を行う。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 34 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○メッド・マルー-アメリカで医療従事者が問われる過誤とは何か？-○話題の耐性菌の概要と当院の現状、感染症アウトブレイク調査の基本ステップ	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○インシデント・アクシデント報告の内容分析○リスクマネージャー会議でのワーキンググループ	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<p>・ 所属職員： 専任 (3) 名 兼任 (3) 名</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 事故・インシデント等の情報収集、分析、改善。(2) 安全管理対策の立案・調整・周知・評価。(3) 職員への教育研修の企画、実施・マニュアルの作成。	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○職員に対する研修に関する基本方針<ul style="list-style-type: none">(1) 感染対策の基本的考え方および具体的方策について、職員に周知徹底を図ることを目的に実施する。(2) 就業時の初期研修のほか、全職員および職種別対象を年数回開催する。(3) 研修の開催結果を記録。保存する。○感染症の発生状況の報告に関する基本指針 MRSA等の感染を防止するため、「院内感染状況報告」を週1回程度作成し、対策室にて確認・検証を行うとともに、対策チームを通じ院内への情報提供・注意喚起に活用する。検討結果は委員会にて報告され、再確認等、活用する。○院内感染発生時の対応に関する基本方針 異常発生時は、その状況および患者様への対応を病院長に報告する。対策室にて速やかに発生の原因を究明し改善策を立案するとともに状況に応じて委員会を開催する。	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 1 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○院内感染防止に関する検討・実施・各種マニュアルの策定および研修等を行う。○エピネット等による針刺し事故等の報告分析と再発防止に努める。○定期的（週1回）な院内感染状況報告と対策の協議ならびに抗菌薬使用状況等の分析を行う。○医療現場においての感染防止対策に関する取組みの評価を行う。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○病院全職員を対象とした院内感染及び感染症等に関する研修の実施<ul style="list-style-type: none">(1) 話題の耐性菌の概要と当院の現状について(2) 感染症アウトブレイク調査の基本ステップについて(3) 手術部位感染対策の現状と今後の展望について	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 定期的な医療現場の感染対策に関する環境整備の確認及び指導(2) 感染に関するニュースレター及び各種研修資料の提供(3) 細菌検査担当者、薬剤部担当者とともに院内感染に関する情報を共有し改善に努める	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： ○内服薬処方せんの記載方法に関する安全対策 ○持参薬の現状	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (①・無) ・ 業務の主な内容： ○医薬品の採用・購入 ○医薬品の管理 (麻薬等の管理方法等) ○患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法 ○患者に対する与薬や服薬指導 ○医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い ○他施設 (病院等、薬局等) との連携	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (①・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○製薬会社MRからの情報収集 ○医薬品安全管理ニュースの作成、配布による情報提供	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 1 3 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">○輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な操作法○酸素療法○人工呼吸器の安全管理	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 (①・無)・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none">○人工呼吸器、血液浄化装置、体温維持装置、人工心肺、輸液ポンプ、シリンジポンプ除細動器、診療用放射線照射装置等	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (①・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">○MEニュースの作成、配布による情報提供○リスクマネージャー会議での周知	